



第3回日中平和学対話



基調講演



「下請けの帝国——ひきこもりの国民主義と内向する社会」

敗戦後日本はパックス・アメリカナに組み込まれて、米国の世界支配の「下請けの帝国」となりました。戦後日本は米国との関係においては従属的な地位にありますが、旧植民地・支配地域への優越感・差別意識を保持し続けて、帝国意識を残存させてきました。しかし、パックス・アメリカナの衰退期・黄昏期を迎え、東アジアのパワーシフト（日中の国力の逆転、他のアジア諸国の台頭）に直面しているいま、日本人の帝国意識は「ひきこもり」（現実逃避の自己賛美）と「排外主義」（ヘイトスピーチ）に向かっています。この精神構造の分析と、それを克服するための方向性について、酒井氏に語っていただきます。酒井氏の問題提起を受けて、中国の研究者とともに、米国・日本・東アジアの関係について議論したいと思います。

講師：**酒井直樹**氏（コーネル大学教授）

日時：**2019年2月21日**（木）**9:30～12:30**

会場：立命館大学 大阪いばらきキャンパス

C棟3F・C373教室



講師プロフィール：

さかい なおき。1946年生まれ。東京大学文学部卒業、シカゴ大学で博士号を取得。現在、コーネル大学人文学部教授。専門は日本思想史。日本語の著作として、『希望と憲法——日本国憲法の発話主体と応答』（以文社、2008年）、『死産される日本語・日本人——「日本」の歴史-地政的配置』（講談社学術文庫、2015年）、『ひきこもりの国民主義』（岩波書店、2017年）等。

【お問い合わせ】

立命館大学国際地域研究所

TEL: 075-466-3335/ Email:kokuchi@st.ritsumeai.ac.jp

Co-Hosted by

Institute of International Relations and Area Studies, Ritsumeikan University

PSAJ, Peace Studies of Association of Japan

The Charhar Institute

UNESCO Chair on Peace Studies at Nanjing University

Institute of Nanjing Massacre History and International Peace

